



# とっぱずれ



銚子東ロータリー・クラブ Weekly Bulletin NO. 1957



宮内家の梅 (提供: 宮内宗一会員)

第1957 例会 平成24年5月22日

\*\*\*\*\*

点 鐘 … 木村 貞夫 会長  
ロータリーソング … それでこそロータリー  
来訪ロータリアン紹介

… 親睦活動・家族委員会

会 長 挨拶 … 木村 貞夫 会長  
御 祝 披 露 … 木村 貞夫 会長  
誕 生 祝 … 藤崎 一成 会員(5月18日)  
結婚記念日 … 中西 廣 会員(5月16日)  
大木 忠 会員(5月20日)  
入会記念日 … なし

幹 事 報 告 … 黒田 幸一 幹事

ニコニコBOX … 親睦活動・家族委員会

卓 話

「税理士なって」 石毛 園子 会員  
出 席 報 告 … 出席・プログラム委員会

## 第11回定例理事役員会 (例会終了後)

次回のプログラム

\*\*\*\*\*

\*平成24年5月26日(土)  
創立40周年記念式典・祝賀会  
式典 15:30~ 祝賀会 18:40~  
「銚子プラザホテル」

\*5月29日(火) 休会 (5/26に振替の為)

\*平成24年6月5日  
卓 話「イルカ・クジラのトリビア」  
銚子海洋研究所 所長 宮内 幸雄 氏



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011~2012年度 RI 会長 カルヤン・バネルジー

(Kalyan Banerjee)



## 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 眞実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

第 1956 回例会(平成 24 年 5 月 15 日)

### 会長挨拶

木村 貞夫

今日は銚子ロータリークラブより宮内龍雄会員、信太秀紀会員、佐藤直子会員、ようこそおいで下さいました。ごゆっくりお過ごし下さい。

本日の卓話者は宮川雅夫会員です。演題は「黒生瓦の歴史」です。後程宜しくお願ひします。

「与える喜びの大切さ J」についてお話しします。

こんなことがありました。あるときタクシーに乗つたら、運転手さんが身の上話をしだした。親の反対を押し切って奥さんと一緒になって、女の子が一人できて、その子が小学校に上がる前に奥さんが乳がんで死んでしまった。両方の親に反対されたから意地でも親には世話になりたくないの、一人で子供を育てていて、昼食と夕食は家に帰って作って娘と食べて、洗濯物は「父ちゃんがやるから」って家を出るそうなんだけど、帰ったら幼稚園児の娘が「全部洗ってあるよ」って言っている。

もう一つ、私が打たれたのは、新潟にいる神父様から聞いた話。ベルギー人の神父なんですけれど、その方が市内のアパートを借りて障害者の夫婦を何家族かみているんですね。その中にまだオムツをしている子供を持つ夫婦がいるんですけど、その子がオムツが濡れると、新しいオムツを持って、お母さんの前にころんと寝転がる。そうすると、お母さんがオムツを替えてやって、その子は濡れたオムツを捨てに行く。トイレに行けないお父さんには、その子が尿瓶を持って行くんですって。やっと歩けるような「赤ちゃん」が親の世話をしているわけです。

つまり、自分のことを無能だと思っている親たちが、子供に与えさせてやっているんですね。受けるだけでなく、与えることのできる精神を持つ大人へと育んでいる。タクシー運転手の方の娘さんも、障害者夫婦の子供も絶対に非行には走りませんよ。これは間違いない。与える喜びを知っているから、もう大人なんですよ。

多くの日本の親は、子供をずーっと大人にしないでしよう。「受験だから何もなくていいよ」とか言って、家のことは何もさせない。家庭内暴力を振るう子供のほとんどは、家で甘やかされ、親から用事を言いつけられることもなく、まるでお客さん扱いで、家族とともに生きているという実感や責任感を自覚したことがないのだと思う。だから暴力を振るって、自分はこんなに力がある

んだぞ、と示すほかはないのでしょう。

### 幹事報告

- 1・ガバナー事務所より
  - ・平和フェロウシップ・ニュースレター
  - ・ロータリー財団未来の夢ニュースレター
  - ・ロータリー財団のニュースレター

「毎年あなたも 100 ドルを」

- ・ハイライトよねやま 146

受領

☆週報受領 八日市場RC

### 卓話

「黒生瓦の歴史」

宮川 雅夫 会員

<付録>参考資料  
黒生瓦懐古

平林久恵氏(黒生出身・現川口町)が、昭和 60 年に郷土史談会で発表した資料です。宮川親族が系図とともに語り継いでいくための参考資料として掲載します。

(黒生瓦の変遷に関する資料提供=宮川力一)

【瓦のふるさと黒生について】

平林久恵氏

#### 1、はじめに

私が黒生の瓦に興味を示したのは小学生の時、当時は「黒生の焼き瓦」が銚子の特産物として大きく取り上げられていました。黒生に生まれ育った私にとって、もう何年かしたら、「黒生の焼き瓦」が次第に忘れ去られてしまうかも知れないとの思いから、郷土史談会を通じて語り伝えたいと思った次第であります。

#### 2、瓦屋に住む町

黒生の海岸線は、古代の岩石が多く露出していて、その色は淡い緑色をしていました。岩石の風化と地水によって黒色粘土となり、この岩石の中にはピカピカ光る黄銅鉱が沢山含まれていました。この岩石は、日本最古の古代層で「緑成岩」と呼び、地表に露出しているのは非常に珍しいとの事です。

このピカピカ光る黄銅鉱は、私連が子供の頃には、「金石(きんいし)」と呼んで大切な宝物になっていましたが、この緑成岩と相まって岩石状に推積している黒色粘土層がありこれが良質の瓦の原料となったそうです。

瓦屋には、申すまでもなく瓦を焼く大きな「かま」があって、燃料の松を庭づたいに積み上げたり、自分の家の前に高く垣根のように積み重ねたりして、そばを通ると松のにおいがぷんぷんしたものです。その様は黒生の町の風物詩でした。

黒生という町は、瓦業と漁業とに二分され 一つの町

で二つの異なった生活がありました。生活そのものに独特の味があり、漁師は浜がしけになれば瓦屋へ土方をしに行く人もありました。

町は潮風から家を守るために、どこの家もコールタールで塗りこめられていました。当時の黒生の家々は黒の瓦に白のしっくい線で見事なコントラストを描き、磯の町にとても良く似合っていました。おもしろい事に、住んでいる人連も黒ずんで見えました。漁師は潮風にさらされた赤銅色の肌、瓦屋は瓦づくりの仕事で何となく黒ずんで見えていたように思えます。

黒生は、おいしい魚の沢山とれる町でした。今の一山いけすの場所は、かつては塩工場があり、その先は網干し場になっていて、土手には椿の花が咲き、グミの実が赤く熟していました。海鹿島と黒生の境には、美加保丸遭難の碑があり、とんびの形をした大きな岩が突き出ていました。その少し先の海には、昭和二十三、四年頃までアシカの遊ぶ姿も見受けられました。とにかく絵になる場所で、私達が子供の頃はよく絵を描く人の姿を見受けました。それほど美しい所でした。瓦の土を掘り終わった所は大きな池となり、オタマジャクシや蛙が泳ぎ、子供達のととてもよい遊び場所でした。このように瓦の土が掘られて出来た池はいくつかあり、小学生の頃は、社会科の勉強で利用した事もありました。

また、一山いけすのそばの大きな岩に上って黒生の町全体を見渡した時の、夫婦ケ鼻から黒生にかけての崖っぷちの美しきは、それは素晴らしく、何時まで見ても飽きのこない銚子一番の景色でした。

大小さまざまな磯岩が、ポカリポカリと波間から顔を出す様や、金銀砂の浜づたい、釣りをする人、磯草を拾う人、行き交う数々の漁船、海女が火を焚き、体を温めている姿などが三、四十年を過ぎた今もはっきりと浮かんできます。

黒生の瓦屋さん、黒生の海岸線にかけて点在していました。瓦の田んぼで瓦の土をより分ける仕事をする「かべこし女」の働く姿がありました。素朴な人達が住む町でした。黒生という地名も私流に考えますと、この瓦を焼く煙を指していたのではないかと思います。瓦を焼く黒い煙が土から瓦へと生まれ変わらせる……私は今でもそう考えています。

### 3、瓦の歴史

黒生瓦を始めた元祖は、今の宮川家の先祖だそうです。時を同じくした頃、黒生には、「尾張屋」「柳屋」という瓦屋もあったそうですが、瓦の流れは違うようではっきりしません。

宮川家の先祖は越前の国の人（福井県坂井郡山十楽）で元は武士でした。文政元年八月十五日生まれの、「宮川力蔵」という人です。参勤交代で江戸へ出て、後に銚子笠上村の栗橋治郎右衛門（屋号「じろめや」現存）へわらじをぬぎました。天保十二年の事です。その力蔵氏が黒生の粘土に興味を示し、土の研究をしてかわらを作っ

たのがそもそもの始まりだそうです。

初代力蔵から現在まで、瓦業をひとすじに受け継いできた宮川家は、すでに百四十五年の歴史が流れているそうです。初代の力蔵から黒生の瓦業者の分家が出て、数を増やしていった事は誠に興味深いものです。もちろん、中には尾張屋から出た伊東瓦屋さんや、尾張屋から大正十五年に買い取った奥の広田瓦屋さんなどがありますが、宮川家が草分け的存在と申しても過言ではないと思えます。

調査を進めているうちにこんな話も聞きました。高神出身の人が、他の土地の瓦屋へ見習いとして働きに出て、瓦作りを覚えてきて伝授したといった事なども。いろいろな事を乗り越えて黒生瓦は作られてきましたが、黒生の焼き瓦を最後まで作った瓦屋は、奥の広田瓦さんで、自分の持ち地所から良質の土が出ていたので、昭和四十年頃まで瓦を焼いていたようです。銚子の観光名物にもなっていた「黒生瓦のかま」を保存する声もありましたが、いろいろの事情で、現在の新しい瓦屋へと姿を変えていったのです。

### 4、黒生瓦の盛衰

江戸時代から現在に至るまで、瓦屋にも浮き沈みがあったようです。特に、昭和初期の頃は不景気のどん底で朝は三時起きして、瓦の注文とりのために白転車で八日市場、佐原方面まで飛び歩いたそうです。家の工場で、ただ瓦作りをしていれば良いというわけにはいかず、製造から販売までを足で歩いて自分の家の瓦の宣伝をしたわけです。何とかして製品を売ろうと懸命だったのです。昭和十五、六年頃になると、黒生の粘上が次第に不足ぎみになり、貨車で埼玉県から土を買い入れては銚子の土と混ぜ合わせて瓦を作らなければなりません。もちろん、売る時は「銚子瓦」として売り出しました。

そうこうしているうち、戦争になり、家を焼かれた人達が続出しました。道路の整備改革とも重なり、家を建て替えなければならぬ人達も出てきました。瓦屋は今までよりずっと忙しくなりました。また、戦後はセメント瓦の需要が多くなって、セメント瓦に切りかえる家も出てきました。

こうして黒生瓦も一部セメント瓦作りへと移りましたが、その一方、三州、遠州、埼玉を含む関東一円で製造される瓦の販売をするようになり、瓦の営業も、「作る」営業から「売る」営業へと変わってきました。

黒生産出の粘土も、全っく無くなってしまった訳ではなかったのですが、その製造法は手作業中心で能率が悪く、経費や、手間がかかり過ぎたのも一つの要因のようです。

そういうわけで、戦後瓦屋は大変忙しくはなりましたが、その反面、それを機会に瓦屋をやめ転職した家もありました。それと同時に、ほとんどの家では名物であり、シンボルであった「かま」が姿を消していきました。

### 5、あとがき

子供の頃遊んだ場所は、今では、すっかり姿を変えてしまいましたが、私にとって黒生瓦は忘れる事が出来ません。今回この調査を進めまして、忘れかけていた昔の事がはっきりよみがえり、生れ育った黒生が、一層素晴らしく誇りに感じられました。瓦一つにも現在に至るまでの歴史がある事をおわかり頂けましたら幸いです。

————ニコニコ————

### 宮川雅夫君

一昨日、四男の結婚式でした。これで4人の子供がすべて結婚を致しました。父親として肩の荷がおりました。

### 国際ロータリー・ニュース

2012年5月9日

#### バンコクでポリオ撲滅と貧困削減を胸に誓う

バンコクにて4日間にわたり開催されたロータリー国際大会が最終日を迎え、出席したロータリアンとゲストたちは、ポリオ撲滅と貧困削減への決意を新たにして、閉会式に臨みました。181の国と地域から、3万5千人以上が出席した今大会では、世界ポリオ撲滅活動における2つの大きな達成など、さまざまなロータリーの取り組みが紹介されました。

田中作次 RI 会長エレクトは、7月1日の就任に向けた抱負と、「奉仕を通じて平和を」をテーマとする次年度の計画について語りました。

また、第4回本会議では、ノーマン・ロータリー・クラブ（米国オクラホマ州）に所属するロン・バートン氏が、2013-14年度 RI 会長として正式に選出されました。

\*2013年 RI 国際大会は2013年6月23～26日まで、ポルトガルのリスボンにて開催されます。



(RI ホームページより)

### ◆◆◆ 創立 40 周年記念式典・祝賀会 ◆◆◆

平成 24 年 5 月 26 日 (土)

式典 15 : 30 ~ 講演会 17.20 ~ 祝賀会 16 : 40 ~  
「銚子プラザホテル」

#### 記念講演・記念寄席

講 演 「六ヶ国語落語の話」(笑いは各国様々)  
記念寄席 「井戸の茶碗」  
落語家 三遊亭 竜楽 様

☆ 会員は午後2時集合です。

### 前 回 の 例 会 (5/8) 報 告

点 鐘 木村 貞夫 会長

#### 出席報告

会員総数 40 名 出席規定除外数 9 名  
出席者 27 名 出席率 80.00 %  
5月1日 確定出席率 81.08 %

#### 来訪ロータリアン

宮内龍雄君 佐藤直子君 信太秀紀君 (銚子RC)

欠席者 7名

#### メイクアップ

平野君 石上君 木村君 黒田君 杉浦君 宮川君  
(5/20 八日市場RC)  
澤田君 (5/18 米山オリエンテーション)

スモールコインBOX 小 計 ¥ 2,160-

累 計 ¥ 85,165-

ニコニコBOX 小 計 ¥ 15,000-

累 計 ¥501,900-

銚子東ロータリー・クラブ

銚子市三軒町19番地の4 銚子商工会館内 TEL0479(23)0750 FAX0479(25)8789  
メール [c-higashirc@tcs-net.ne.jp](mailto:c-higashirc@tcs-net.ne.jp) URL <http://www.tcs-net.ne.jp/~rc>

例会日時及会場 毎週火曜日 12時30分点鐘 銚子商工会館5階大会議室

会長 木村 貞夫 副会長 石上 明宏 幹事 黒田 幸一

R. I 第2790地区

クラブ広報・会報委員会 石井 哲也・川津 光雄・杉浦 武

表紙題字 網中喜一郎初代会長

ほととぎす 銚子は国の とっばずれ

古 帳 庵

江戸小網町の豪商鈴木金兵衛夫婦(古帳庵 古帳女)が銚子に遊んだときに

詠んだもので、この碑は圓福(円福)寺に現存する。